

第3回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

腫瘍センター事務局

平成26年6月7日(土)に第3回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部霜仁会館で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、薬剤師、栄養士、PT、OT、MSW、ケアマネージャー、訪問看護師、介護福祉士と様々な職種の方々が74名参加されました。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長より開会の挨拶があり、当院の精神科神経科松原敏郎先生、宮内貴子副看護師長を司会として、各施設より事例提示があった後、ディスカッション形式で全体討議を行いました。

事例1：「大学病院から在宅緩和ケアへ移行した大腸がんで圧迫骨折を合併した症例」

山口大学医学部附属病院 腫瘍センター	松元満智子先生
山口大学医学部附属病院 看護部	吉山由希恵先生
宇部協立病院地域連携・在宅医療科	立石彰男先生
虹の訪問看護ステーション	伊藤麻紗先生
むべの里居宅介護支援事業所博愛園	工藤喜美子先生

事例2：「大学病院から在宅緩和ケアへ移行した30歳代の終末期胃がん症例」

山口大学医学部附属病院 第一内科	岡本健志先生
山口大学医学部附属病院 看護部	大上英美代先生
すえなが内科在宅診療所	末永和之先生
訪問看護おかふじ	岡藤美智子先生

参加者からは、「家族へのフォローの大切さ、家族の希望、本人の意志の確認の大切さを学べた」、「病院から在宅への過ごされた経過、どのように過ごされ支援をされていたか流れを通してよく分かった。」、「医療者のいない家庭に看取りは怖くないと思わせることができる宇部市のチーム医療は素晴らしいと思いました」など多くの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

この度は、医療機関の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、年2回開催される予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

《 検討会風景 》

